

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパⅡ講座・准教授
氏名 Name	古谷大輔
専門分野 Academic Field	西洋史学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	バルト海帝国を事例とした礫岩国家の歴史的ダイナミズムに関する研究
<p>今年度は、科研基盤研究（B）「歴史的ヨーロッパにおける複合政体のダイナミズムに関する国際比較研究」の研究代表者として、国内外の研究者との研究交流を促進させながら、多様な地域政体が寄り集まる複合的な政治編成とそれらを含む普遍的な政体理念の関係から「礫岩国家」論を方法概念として精緻化させることに努めた。例えば、2014年4月にはフランス社会科学高等研究院のジャン＝フレデリック・ショーブ氏、同年9月にはルンド大学のハラルド・グスタフソン氏やコペンハーゲン大学のゴナ・リン氏など、現在のヨーロッパ歴史学界において主要な近世史研究者と国内の近世史研究者の知見を結ぶ目的で、「礫岩国家」論をテーマとした国際ワークショップを主催した。そうした経験に刺激されつつ、バルト海帝国を対象とした個人研究においては、「王国の叙法-近世スウェーデンの歴史的景観記述に見る王国像-」と題して刊行された論文のなかで、複合的な政治編成としての王国像の可視化プロセスを確認した。また、こうした「礫岩国家」としてのバルト海帝国の経験が後世のスウェーデン史にどのように引き継がれたのかという点について、近世のウップサーラに集った古物学者や博物学者らの事績を辿りながら、「祖国の可視化から世界の可視化へ」というテーマを設定し、今日の世界認識において標準とされているリネー学派の分類法が構想される歴史的背景について調査をすすめた。その成果の一端は、2014年10月に開催された第七回適塾講座における「アジアとヨーロッパを繋ぐ媒介者たち-蘭学を刺激したヨーロッパ出身者の事情」と題した講演などで披瀝している。</p>	